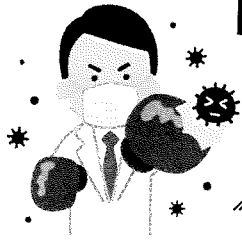


集・特・夏・銷



「新型コロナ」に負けるな！ ～私の「新型コロナ」対策～

ヒトは巨大災害を防げるか

岩国市 庄司 孝(婦)

人類は、過去幾多の感染症による絶滅の脅威にさらされた。ペスト、天然痘、コレラ、腸チフス、初期には恐るべき致死の伝染病であった麻疹などである。いずれも徹底的な隔離や有効なワクチンまたは優れた治療法の発見が病菌から人類を救った。あるいは病菌の方から毒性を減じて平和な共存の道を選んだりもした。

新大陸を発見したコロンブスが「梅毒」をヨーロッパに持ち帰ったとされている。それが地球を半周して我が国江戸、吉原遊郭に到達するのに20年かかったという。船で移動しなければならなかった当時としては驚異の伝播力である。性本能に基づく伝染様式がいかに無駄なく機能したかを想像すれば驚くほかない。今回「新型コロナ」は、2〜3週間たらずで世界中に拡散したらしい。昔は性本能による拡散もメスからオスへだったが、今回はホストクラブやライ

ブハウスの例のようにオスからメスへと広く迅速に伝わっている。梅毒もコロンブスが持ち帰ったころは、「急性伝染病」で致死率も高かったと云う。トレポネーマにとってそれは困ったことで、学習してだんだんと「毒性」を減じ今日のような「慢性疾患」となり、生き残りをはかった。今度のCOVID-19も同じような道をたどるのであろうか。ヒトに寄生しなければ生き延びられないコロナウイルスにとっては宿主が死んでしまつては元も子もない。コロナウイルスにとっては宿主がちよつと弱って増殖に都合な状態になる程度こそ望ましい。とすれば、やがては毒性を減じた新型のウイルスがどんどん出て来るに違いない。それがまたワクチン開発研究者に困難を強いることとなる。

新型ウイルスがパンデミックになるには、ウイルスと宿主であるヒトとの両者の条件が一致することが必

要だ。たとえば感染したら2〜3日のうちに劇症型になって死亡するとしたら如何にそのウイルスが強い伝染力を持っていても広い伝播は起らない。今回のコロナでは、ほど良い伝染力と重症化率がちょうど良いいわばコロナとヒトとの波長がぴったり合ったところでパンデミックとなっているのだ。

ここ数十年間で百年に一度とか云う災害がどんどん起きています。これは「ヒト文明」のあり方と大きな関係があると考えられる。

人類は、より早く、より安く、より便利にと「ヒト文明」を発展させてきた。資本主義の原則で、大量生産、大量消費、一極集中、巨大都市を実現し、過去のどの時代よりも多くの人々が快適な生活を手に入れることができる。もちろんそれには「ドロップアウト」も生ずるのだが今はそれはさて置き、「ヒト文明」と「コロナ文明」とは完全に波長が合っている。コロナたちは、より早く、より遠く、梅毒の時は、20年もかかったものがわずかに旬日のうちにアマゾンの原住民まで拡散する。

自然災害などすべて、「ヒト文明」そのもののあり方が問題だ。すべての

災害は、昔の比でない被害をもたらす。大量生産、大量消費、一極集中、巨大被害へとつながることになる。もちろん被害を最小限に減らすには、防災インフラの整備は欠かせないが、「大きいことは良いことだ」という考えはそろそろ反省しなければならぬ時だ。今回のコロナでマスクの生産が中国一極に偏っていたことが発覚した。中国の安い人件費で製品価格は極端に低く提供されてきた。勿論それ

はそれで人々にとつて好都合ではあるが、今回のように急にマスクの需要が高まると医療用マスクにも事欠くことになる。極端な大量生産はやめて、多少高くても、ちよつと位不便でも、それは我慢することが巨大災害を防ぐことにつながる。やがて来る巨大地震、津波、噴火、新しい流行病を考えると、小規模、分散化こそこれからの「ヒト文明」の進むべき道と考えるものである。